

1. こんばんは。岩本です。今日の『毎日新聞』のスcoopは衝撃でした。アフガニスタンの戦乱から逃れてきた難民を、イランがISと戦わせるための「傭兵」としてシリアに送り込んでいるというのです。難民の貧困に乗じてのことです。
2. 戦争は連鎖する。アフガニスタン、イラク、そしてシリアへと。と同時に、戦争がもたらす恐怖と貧困も連鎖する。日本国憲法は70年前に、全世界に誓いました。日本は、戦争の連鎖、そして戦争がもたらす恐怖と貧困の連鎖を作る「鎖の輪」には2度としないと。そのことによって、国際社会において「名誉ある地位」を占めたいと記したのです。
3. 憲法がいう「名誉」とは何か。名誉には2つの種類があります。1つは、ある階層的な社会において、特定の階層に割り当てられた役割をよく果たすことによって与えられる名誉です。王は王としての役割を果たし、貴族は貴族としての役割を果たし、平民は平民としての役割を果たすことによって与えられる名誉です。現代の国際社会においては、アメリカは「世界の王様」としてふさわしい振る舞いをするので、名誉を得ようとしています。しかし、この意味での名誉は、トランプ大統領の振る舞いがそうであるように、独善に陥りやすい。
4. 日本国憲法がいう「名誉」は、それとは異なります。それは、誰もやらない、あるいは誰もやれない価値あることを敢えて試みることで、つまり、その社会において「唯一無二」の存在になることによって得られる名誉です。たとえば、暴力と差別がはびこる社会にあって、敢えて非暴力による抵抗を貫くという困難な道を選ぶ。私たちが、マハトマ・ガンディーやマーティン・ルーサー・キングに対して与える名誉、これこそが日本が目指すべき名誉だったはずですが。
5. 日本はちょうど2年前の今日、安保関連法、いわゆる「戦争法」を強行成立させました。この暴挙によって、安倍政権は、日本国憲法が目指すべき「名誉」をかなぐり捨てました。アメリカが作った国際秩序の中で、アメリカによって割り当てられた「同盟国」という名の「属国」としての役割を粛々として果たすことによって得られる名誉を選んだのです。アメリカが「油が欲しい」といえば、すぐさま油を持って馳せ参じることで得られる名誉です。
6. そしていま、安倍首相は「自衛隊を合憲化する」という名目で、日米の軍事同盟にとっての最大の障害である憲法9条を完全に骨抜きにしようとしています。安倍首相は党総裁であるにもかかわらず、自民党改憲草案を「反故」にしてまで改憲に邁進しています。本気です。安倍首相は言います。憲法9条の1項と2項を残しつつ、自衛隊を憲法に明記することで、自衛隊をめぐる憲法上の疑義を払拭するだけである。だから、これまでとは何も変わらない。これは、「嘘つき男」が国民に対して仕掛けた「最大の嘘」です。騙されてはいけません。
7. 変わらないわけがない。憲法の条項は1個1個独立しているわけではありません。有機的につながっています。こう考えてみてください。ケンちゃんとカズちゃんは、幼なじみの友だちです。そこに後から、シンちゃんが無理矢理2人の間に割って入って、「友だちになろう」と言

う。人のよいケンちゃんとかズちゃんは「いいよ」と言ってしまいます。実はシンちゃん、「空気のように嘘をはく」嘘つきです。そんな奴を仲間に加えれば、ケンちゃんとかズちゃんの関係も変わってしまうのは当然です。憲法の条項も同じです。憲法解釈は必ず変わります。

8. 私たちは再び、日本国憲法が目指す「名誉ある地位」を得るための努力を始めましょう。もちろん、名誉回復の道は険しい。それでも一步一步前に進みましょう。それには、まず安倍政権を退陣させること。戦争法を廃止させること。そのためにやれることは何でもやる。その覚悟をもって、ともに頑張りましょう。本日はどうもありがとうございました。